

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (北海道)	良く なっている			
	やや良く なっている	百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・10月に入り、客の購買意欲が高まってきている。地元球団が優勝したことも追い風となり、市内の消費気運も高まっている。来客数、買上客数ともに増加傾向にある。
		百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・来客数低迷からの回復はみられないものの、買上客数が増えており、来店した客が確実に買っている。ただし、目的買いの客が主となっているため、今以上の売上の拡大には限界がある。
		百貨店（役員）	来客数の動き	・今月はホームセンター、百貨店部門ともに比較的順調に推移している。急激に寒くなりストーブが動き始めた。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・天候も秋らしくなり、来客数が前年を上回って推移している。特に、衣料品は前月の異常気象からの反動で大きく回復している。食品は来客数が増加しているが、前年の野菜高騰による売上増加の反動がみられる。住宅余暇部門は衣料品と同様に、寝具を筆頭に季節商材の動きが顕著であった。
		その他専門店 〔医薬品〕（経営者）	販売量の動き	・ようやく冬型の買物動向になってきた。医療関連は暑いよりも寒い方が景気がやや改善する。客は必要不可欠な商品は購入する。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・この夏場はビジネス需要が前年ほどなく、当地域からの航空機利用は前年を下回る状況であったが、秋口から回復傾向にある。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・10月25日までの利用客数を比較すると、前年との比較で111.7%、東日本大震災前の前々年との比較でも116.0%となっており、上向き傾向となっている。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・観光最盛期が過ぎたが、航空運賃が値下げされたこともあり、前年と比較して旅客数が大幅に増加している。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・相変わらず分譲マンションの供給戸数は少なく、その供給量が急激に伸びる可能性の低い状況であり、客が商品を選ぶ上での選択肢は少なくなっている。その結果、マンション購入を考えている客との商談は以前にも増して熱気がある。
	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・急激に気温が下がり、天気も悪いため、客の外出が少なくなった。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・秋冬物ということで商品自体の単価は上昇してきているものの、客の買い方、商品の見方は、値下げやバーゲンを待っている感じであり、なかなか購買にはつながらない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の声として、日々の変化がないというのが大方の意見である。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	お客様の様子	・大雨などの災害がなかったこと、気温が北海道らしい気温に戻ったこと、中国における反日感情が下火になったことなどから、旅行ムードが高まったのか、前年比で8%の伸びとなった。
		百貨店（売場主任）	お客様の様子	・21日時点での店全体の売上は前年比100.2%と前年を上回っているものの、買上客数は前年比99.1%と前年を下回っている。気温の影響でずれ込んだ衣料品が動き始めたことで、客単価は上がっているが、デイリー性の高い食品は苦戦している。
		スーパー（店長）	単価の動き	・販売量の動きもあまり良くないが、それ以上に価格に対する見方がシビアになってきているため、客単価が上がっていない。
	スーパー（役員）	販売量の動き	・気温が例年並みになり、鍋商材、カップめんなどの秋冬商材の消費動向が通常になってきた。	
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・農家や漁業などの地場産業において、天候要因によるぶれが大きくなってきているため、売上がより天候に左右されやすくなっている。	
	衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・客と話をするなかから、これはなかなか景気が良くならないという印象を持っている。	
	衣料品専門店（店員）	販売量の動き	・残暑が長かったため、秋物衣料よりも、いち早く冬物衣料に移る消費者の動きがあった。	

	家電量販店（店員）	販売量の動き	・10月は白物家電や暖房機などが前年並みに売れているが、テレビやレコーダーなどがまだ回復していない分、売上が上がってこない。
	家電量販店（地区統括部長）	販売量の動き	・残暑の影響で暖房器具の売行きが伸び悩んでいる。反面、パソコンは新型OSの発売で関連機器も含めて伸長しているが、暖房機の減少分をカバーする程度であり、全体としては横ばいの状況である。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・特定の人気車種に需要が偏っており、全体としての受注は一向に伸びてこない。
	その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	販売量の動き	・現在は原油価格が安定しているものの、販売量が低迷している。
	タクシー運転手	来客数の動き	・注文数が前年比でマイナスとなっている。特に、観光客からのオーダーが減少している。
	美容室（経営者）	お客様の様子	・消費行動が固定化している傾向が顕著であり、毎月決まった内容に決まった金額を使うパターンになっている。
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・変化がみられない。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・例年、観光及び修学旅行等の団体客の増加が見込まれる月であるが、当商店街でそういった影響はみられなかった。また、今月初旬からの冷え込みにより、衣料品を含めた冬物商材全般の売上増加が見込まれたが、店舗の入出店状況を確認する限り、一部の店舗を除き全体的に低調に推移した。
	百貨店（売場主任）	販売量の動き	・秋物のコートやジャケットが、婦人服で前年比70%、紳士服で前年比80%と前年を大きく下回っている。天候の影響も考えられるが、景気低迷の影響が衣料品に大きく出ている傾向がみられる。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・販売量は前年比94%となっている。前々年との比較では2割減という状況にある。
	スーパー（役員）	来客数の動き	・9月は残暑が続く売れ筋が変わったことが原因とみられたが、10月も引き続き消費者の購買動向が厳しい状況にある。ここ数か月、客単価の前年割れが続いており、さらに利用率の低下も進んでいる。
	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・来客数は前年並みに推移しているが、年金支給日や給料日などの売上が増加する期間における、たばこやアルコールなどの保存品の売上が低迷している。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・エコカー補助金の影響で、客が先物買いをしたため、その分売れなくなってきている。
	乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・月を重ねるごとに受注量が減ってきている。購入予定が生じそうな見込みホット客の発生量も低下している。同時に、契約までの時間もかかるようになってきている。
	高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・10月に入り中国系の観光客が少なくなってきたが、代わりにシンガポールからの観光ツアーが目につくようになった。ただし、全体的には、天候の影響もあり、売上が前年を15%下回るなど、相当厳しい月となった。
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・前月までの陽気から気温がぐんと下がったことで、夜の客足が一気に遠のいたが、全体ではぎりぎり例年並みの来客数となった。ランチの来客数は下げ止まっているが、給料の良さそうな企業であっても、若いビジネスマンの利用は少なくなった。地方では、札幌のような格安ランチはみられないが、適正価格で満足度の高い店はどうか持ちこたえている。有名ガイドブックに掲載された地方の店は、昼食を中心にそば店などでの人気が続いている。
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・レストランのランチ、ディナーとも来客数が減少している。特に、ディナーにおける接待利用、家族利用の減少が目立った。
	観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・尖閣問題による中国系の観光客の減少や、異常気象による残暑のため紅葉がうまく進まなかったことが影響している。さらに、大手旅行会社の営業施策が、単純な周遊旅行と年間の安定送客から、イベント重視、休日前日の集中送客に転換されてきていることともない、本州方面からの団体客が大幅に減少している。

		観光型ホテル (スタッフ)	お客様の様子	・異常気象の影響か、紅葉が色付く前に枯れて散ってしまう状態であり、秋の旅行商品が低調である。中国本土からの観光客のキャンセルと不催行も引き続きみられる。
		旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・エコカー補助金の終了、家電消費の落ち込みなど、日本の主力産業の低迷で客の消費マインドが上がらない。
		タクシー運転手	来客数の動き	・夏場の受注状況や需要動向と比べて、デフレ基調が続いていることもあり、タクシー事業においても需要動向が落ちている状況がみられる。
		タクシー運転手	販売量の動き	・観光客の入込が多かった3か月前と比較すれば、今月はタクシーの利用回数が減っており、売上としては約5.7%の落ち込みがみられた。ただし、前年の売上と比較すると、約5.6%の増加がみられるため、前年よりは回復傾向にある。
		通信会社(企画担当)	来客数の動き	・通信サービスを他社に乗り換える客が急増している。
		パチンコ店(従業員)	販売量の動き	・これから冬に向かい、夏よりも厳しい節電対策を強いられる報道等がみられることから、年末商戦に向けての顧客確保が難しくなる。また、レジャー関係の顧客数の減少傾向ももうかがえる。
	悪くなっている	商店街(代表者)	来客数の動き	・気象状況の変化にともなう、来街者数の減少傾向がみられる。特に、週末の来街者数の減少が目立つ。
		一般小売店[酒](経営者)	販売量の動き	・今月は販売量だけでなく、来客数も非常に減っており、来客数、販売量ともに大変苦戦している。売上が相当厳しい状況が続いている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・当地のタクシーの売上は9~10月と前年を大きく下回っている。暖かい天気が続いた反動もあり、夜の繁華街を歩いている人の数も減っている。
		住宅販売会社(経営者)	お客様の様子	・原発の問題に加えて、総選挙の時期が不透明なこともあり、客の閉塞感が非常に強くなっている。
企業動向 関連 (北海道)	良くなっている やや良くなっている	-	-	-
		建設業(従業員)	取引先の様子	・東北復興への人材派遣や景気低迷による廃業などで建築関係工事の労務者が減少しているなかで、かなりの大型工事が佳境に入っており、人手不足や人件費単価の上昇がみられる。
		その他サービス業[ソフトウェア開発](経営者)	受注量や販売量の動き	・受注量は増えてきているが、受注条件は一向に改善されない。むしろ厳しくなっている。
		その他非製造業[鋼材卸売](役員)	受注量や販売量の動き	・取引先の鉄骨加工の仕事量が予想以上に多かったことに加えて、老朽化した設備の更新があり、販売額が増加した。
	変わらない	食料品製造業(役員)	受注量や販売量の動き	・受注量に変化がなく、この先も特に大きく増減するような案件が見当たらない。
		家具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・大都市圏は少しは景気が良くなっているが、北海道全体としては低調である。
		輸送業(営業担当)	取引先の様子	・日中問題から、中国向けのさんま、秋さけ等の魚介類の輸出貨物が激減している。一方、輸入貨物の肥料原料、塩等は順調である。
		輸送業(支店長)	受注量や販売量の動き	・取扱量は前年と比べても大きな変化はない。例年、下期に入ると取扱量は減少傾向となるが、今年はそれほど落ち込みがみられない。
		金融業(企画担当)	それ以外	・設備投資は、医療福祉施設やメガソーラーの建設などで底堅い。建設関連は技能工が東北地方に流れ、人手不足による工期の遅れも出てきた。観光関連はLCCの就航もあり、持ち直し基調にあったが、中国人観光客の入込に急ブレーキがかかっている。
		司法書士	取引先の様子	・8~9月の不動産取引並びに個人住宅等の建物建築は多めに推移していたが、10月に入ってから若干減少傾向にある。
		その他サービス業[建設機械リース](支店長)	競争相手の様子	・下半期に入り、各社とも客先からの受注が落ちている。
	やや悪くなっている	食料品製造業(経営者)	受注価格や販売価格の動き	・末端販売者からの価格要求が一段と厳しくなっている。

	食料品製造業 (団体役員)	受注量や販売量の動き	・9月までの猛暑により、海水温度が下がらず、さけ、いか等の加工用漁獲量が大きく減少しており、価格の高騰と原料の確保に苦慮している。また、国政や財政に対する不安感の高まりで、消費者の出費抑制が強まっており、し好品である水産加工品の受注が前年と比較して大きく減少している。
	司法書士	取引先の様子	・中古マンションの売買があるものの、土地売買や建物の新築が例年に比べて減少している。
	司法書士	取引先の様子	・不動産取引の成約率や新築建物の着工率が低迷してきている。
	悪くなっている	-	-
雇用 関連	良くなっている	-	-
(北海道)	やや良くなっている	求人情報誌製作会社(編集者)	求職者数の動き ・一部の業種で8月にかけて求人数が前年並みに落ちてきていたが、9月に入ってから急に求人数を増加させた業種がかなりみられる。
		職業安定所(職員)	求人数の動き ・新規求人数は前年から5.3%増加し、32か月連続で前年を上回った。月間有効求人数も前年から11.4%増加し、32か月連続で前年を上回った。
	変わらない	人材派遣会社(社員)	求人数の動き ・求人はあるが、退職者の補充が多いため、雇用数自体に変化はみられない。
		求人情報誌製作会社(編集者)	求人数の動き ・求人広告掲載件数は前年比で18%程度上回っているものの、2~3か月前と比べると若干の減少傾向がうかがえる。
		求人情報誌製作会社(編集者)	求人数の動き ・前年比は111%とここ半年の伸び率に比べてやや落ち着き始めているが、前月にみられた個人消費関連業種の求人の勢いはまだ止まっていない。
		求人情報誌製作会社(編集者)	求人数の動き ・景気自体が良くなっている印象はないが、前年よりも求人数が増えており、堅実に推移している。
		新聞社[求人広告](担当者)	求人数の動き ・募集広告の売上が前年比122%と今月も堅調に推移している。前年を下回る出稿先もみられるが、新規が減少分をカバーしている。特に東京支社では、自動車メーカーの下請派遣業者からの出稿が継続しており、売上に貢献している。業種別には派遣、医療、運輸が好調であるほか、農業関係の派遣募集も依然として多い。
		職業安定所(職員)	それ以外 ・9月の管内の有効求人倍率は0.60倍と前年を0.09ポイント上回っており、平成5年4月以来、19年5か月ぶりに0.6倍台となった。
		職業安定所(職員)	雇用形態の様子 ・9月の新規求人数は前年を15.9%上回り、新規求職者数は前年を9.5%下回った。月間有効求人倍率は0.72倍となり、前年の0.57倍を0.15ポイント上回った。新規求人数のうち、正社員求人の占める割合は40.6%と求人者と求職者との間における職種や労働条件のミスマッチも少なくないことから、依然として厳しい状況にある。
	やや悪くなっている	人材派遣会社(社員)	採用者数の動き ・求人数は3か月前と比較して増えているが、採用数は増えていない。企業が求める人材のスキルは高く、スキルが合わない人材をあえて採用しようとしにくい状況にある。また、求人のほとんどが20代後半から30代で、中高年の採用は手控えられている。ただし、新卒未就職者については、若年層ではあるものの、スキルがかなり低く、採用基準を大きく下回っているため、なかなか採用に結び付いていない。その分、パートの活用が増えている。
	悪くなっている	-	-